



カバ材で製作した玄関収納と、鬼胡桃の式台が特徴的なF邸の玄関。どちらも暖かみのある色合いで、優しい雰囲気を作り出している。床は三和土（たたき）風の土間仕上げとし、柔らかな素材感が玄関を包み込んでいる。



キッチンとダイニングの間に設けたスタディーコーナー。主に子供達の勉強机として利用しているが、カウンターを支える足を自由に移動出来る仕組みとし、暮らしの変化に合わせてられる様にした。



暮らしにちょうどいいサイズ

家族の暮らしに合った「ちょうどよい」サイズは、家族の関わり合いにとっても大切なサイズ。今回ご紹介させて頂く『素顔の家』を通して、ちょうどよいサイズとは何か？お伝えしたいと思います。

広間の全景。木組みを現した室内だが、塗り壁や建具などの素材の組み合わせで、優しい雰囲気を作り出している。

完成現場報告／磐田市

『素顔の家』

写真・文／山崎健治

初めて施主のFさんとお会いしたのは、今から2年程前の、完成見学会の時でした。お嬢さんご夫婦の3人でお越し頂き、熱心にお話を聞いて頂いたのを覚えています。その後、土地の相談を受けたり、数回の見学会に足を運んでいたたりしながら、Fさんのお付き合いが始まりました。

家造りを考え始めた頃は、木の家を意識していた訳ではなく、色々な本や雑誌を読む中でだんだんと木の事や木組みなどの木造技術に惹かれていき、木を生かした家を造りたいと考えて行つたと、Fさんが話してくれました。私と家造りの話を始めた頃には、すでにFさんご夫婦の希望ははっきりとしていて、「木組みを生かした家にしたいが、木の迫力に圧倒される家でなく、シンプルで木の優しさを活かした家にしてほしい」と話されていました。

その後、元々住んでいた住まいの近くで良い土地が見つかり、昨年のはじめ頃から本格的に家の計画が始まりました。

敷地と建物との関係を見てもらうために製作した模型



購入された土地は、いわゆる「旗竿敷地」と呼ばれる形状で、進入路を経て建物に入るタイプの敷地でした。進入路は、車一台分+aの中ですが、建物の建つ場所は逆に広く感じられ、また、三方を隣家に囲まれた土地にも関わらず、土地の形状や、隣家との微妙な距離や高さが、より広がりを感じさせる敷地でした。

Fさんはこの敷地での日当たりを気にされ、当初は2階をリビングにする案も考えられていましたが、建物の形状や配置を工夫し、大きめの庭をL型に囲んだプランを提案させて頂いたで、これなら日当たりも十分確保できるということで、このプランで計画が進みました。

Fさんの購入した敷地は4区画に分譲された一角で、多少の時期はズレましたが、Fさんの両隣の2軒とはほぼ同時期の工事となり、工事中はレッカーや材料の置場に苦労も有りましたが、今年の2月に無事完成することができました。

＋素材がつくる、優しい空気＋

完成後、Fさんの家に伺うと、とても優しい雰囲気を感じます。この感覚は私だけでなく、Fさんの家の完成見学会に来られた何人かの方々がそう話をしていたのを覚えています。

板倉構法で建築した家ですが、杉板の力強さを抑える為に、広間の壁の半分以上を、黄土を混ぜた漆喰仕

上げとし、東面と西面に現した板壁は、あらかじめ色艶の良い板を選んで配置しました。特に黄土を混ぜた漆喰は、Fさんのお宅で始めて採用させて頂いたでしたが、漆喰に混じった黄色味がなんとも言えない温かな雰囲気を出していると感じました。

その他、広間入り口の建具に入れた葛布の色合いや、カバ材で造った建具や玄関収納・キッチンなどが、温かな雰囲気を作り強調整えています。それぞれが持っている素材の個性を生かし、全体として調和の取れた空間が、優しい空気を感じさせてくれているのだと思いました。

1/写真ではちょっと分りにくいですが壁に黄土を混ぜた漆喰を塗っている。通常の漆喰と比べ、どことなく暖かみを感じられる。

2/リビングの建具に挟み込んだ葛布（くずふ）は、淡いピンク色で染められている。杉の床板やカバ材の建具と調和している。

葛布（くずふ）

葛布に使われる「葛」とは、日本に自生するマメ科の多年草で、河川の土手や、線路や道路脇に多く見られます。根からは葛粉、葛根湯が取れ、秋には紫色の花が咲きます。この茎から繊維を取り出し、織り上げたのが「葛布」です。

3間×4.5間のワンルールの空間に、居間コーナー・たたみコーナー・ダイニングコーナー・キッチンコーナーの5つのコーナーが配置されています。それぞれのコーナーはそれ程広いスペースではないですが、それぞれ程よく関係しあい、またスペースを重なり合わせながら個々のスペースを心地よい広さに感じさせています。

住宅のほとんどが、家族で暮らす事を目的に造られている事を考えると、むやみに広いスペースを造るよりも、その家族の暮らしに合った“ちょうどいい”サイズを探り配置していくことで、それぞれが程よく関係し合い、永い時間を共有していく家族の係わり合いにとっても重要な役割を果たしていくのだと思います。

今回の家造りを通して、私達の行っている家造りというのは、ただ建築物を造るというのではなく、家族の暮らしの基本となる、大切な器を造っているのだと改めて感じました。木の事や環境の事、家の性能など、家造りを行なう中で大切に考えていかなくてはいけない部分と合せて、「暮らし」という点にも重点を置き、日々考えて行きたいと強く思いました。

『素顔の家』で造られた“ちょうどいい”のいろいろをご紹介します！

ワンルームの中に5つのコーナー

1階の3間×4.5間の空間の中に5つのコーナーを設けた。それぞれの位置や広さと合わせて、互いの関係性を重視して配置した。居間コーナーやたたみコーナーからはキッチン内部が見えないように工夫しながらも、キッチン側からは全てを見通せる関係とし、また、ダイニングとは近い関係を保つ配置とした。キッチンを含め、水周りを直線的な動線で結び、その間にスタディーコーナーを設ける事で、家事仕事を行いながらも子供たちとの触れあいを重視した配置とした。

1日の中で素顔に戻る時間、それは家族が皆集まって過ごすひと時だろう。ひとつの空間の中で互いを感じながら心地よく過ごす時間は、明日をがんばるパワーの源だ。

居間とたたみコーナーの間に建てた6寸角(18cm)の大黒柱。子供の成長の印にと、背の高さが刻まれた。



たたみコーナーの高さを利用して造った引出し収納。使いたい場所に収納出来てとても便利！



キッチンより、居間コーナー・たたみコーナーを眺める。キッチンからは全てのコーナーが見通せる。



たたみコーナーでご機嫌のSちゃん。元気で目の放せない時期ですが、この家ならどこに居てもお母さんの目が届きます。

たたみコーナーからダイニングコーナー・キッチンを眺める。キッチンや冷蔵庫などを見せないように工夫して配置した。



①玄関収納

玄関の横幅いっぱいにはけた玄関収納。靴の他にも沢山収納できて“ちょうどいい”



②食器棚

キッチンとダイニングの間に設けたカウンター収納。ダイニングで使うグラスや小皿が入って“ちょうどいい”



③キッチン

家具工事で製作されたキッチン。隠れた位置にゴミ箱置き場や調味料置き場があって“ちょうどいい”



④スタディコーナー

5mのカウンターを配置したスタディーコーナー。家族皆で使えて“ちょうどいい”



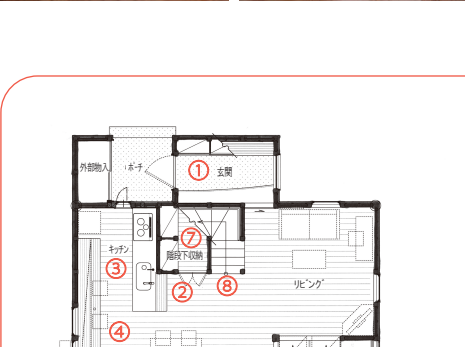
⑤洗面室

洗面とトイレの手洗いを兼ねたパウダリー。トイレと合わせてコンパクトに収まり“ちょうどいい”



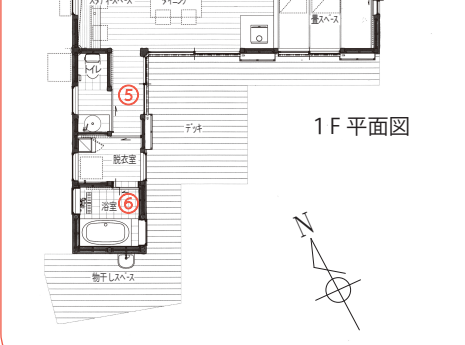
⑦階段下収納

階段下の空間を利用した収納スペース。広間の中心にあるので、出し入れが簡単で“ちょうどいい”



⑧階段収納

階段の蹴上を利用した引き出し収納。小物が沢山入って“ちょうどいい”



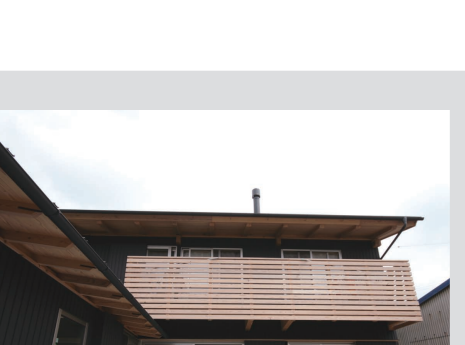
⑨2階収納

クローゼットと洗面を兼ね備えたドレッサー。着替えとお化粧が一緒に出来て“ちょうどいい”



⑩2階子供部屋

2室分の子供室を広く使っている。子供達の遊び場になって“ちょうどいい”



⑪浴室

タイルとヒバ板で造った浴室。ヒバの香りがきもちいい



アプローチより眺めた外観。

中庭より眺めた外観。L型の間取りで中庭を囲んでいる。

仕様内容			
設計者	設備	内部仕上	外部仕上
	浴室	浴室	外壁
山崎健治	浴室	浴室	屋根
	浴室	浴室	床板
山崎健治	浴室	浴室	天井
	浴室	浴室	内部建具
山崎健治	浴室	浴室	外部建具
	浴室	浴室	ガルバリウム鋼板
山崎健治	浴室	浴室	アルミサッシ
	浴室	浴室	ガラス／ペアガラス
山崎健治	浴室	浴室	杉本実板張り
	浴室	浴室	落とし込み板現し＋漆喰塗
山崎健治	浴室	浴室	カバノオリアル
	浴室	浴室	青森ヒバ板張りナサモタイル貼
山崎健治	浴室	浴室	浴槽／XNUMX
	浴室	浴室	浴槽／XNUMX